

# 増殖事業の概要

## I 鯉苗養成放流事業

昭和36年度の放流用鯉苗生産目標は10,100kg.で5月1日から採卵に着手した。期間中6月の集中豪雨のため十分に餌育管理出来ない時期もあったが、他は概して、順調に過ぎ12月上旬をもって餌育池全面の取揚げ放流を完了した。

### (1) 採卵とふ化

3月上旬から親魚池2面(1,930㎡)に於いて成熟をはかった親魚、雌79尾、雄442尾を用い表(1)の如く5月2日から5月19日の間に産卵池6面(200㎡)及び前記親魚池に於いて630万粒を採卵した。

本年の採卵は前年より3日遅く開始、1週間早く終了し順調であった。

表 (1)

区分	産卵月日	使用親魚数		採卵数	ふ化期間	ふ化仔数	ふ化率
		雌	雄				
1	V2~V3	36	180	500万粒	V7~V8	320万尾	64%
2-1	V16~V18	33	192	100	V20~V25	45	45
2-2	V16~V19	10	70	30	"	13	45
計	—	79	442	630	—	378	平均60

備考 区分1 V 1 産卵池に親魚収容  
ふ化池にてふ化  
" 2-1, V 15 産卵池に親魚収容

銅育池にてふ化

区分 2-2 親魚池で採卵のため使用親魚数は推定、銅育池にてふ化

(2) 青仔養成

ふ化仔は予め施肥してミジンコを繁殖せしめた銅育池4面(6,070 $m^2$ )に收容し、ペー  
スト状肝臓475 Kgを与えてV.I 5から順次取揚げ9回にわたって銅育池16面に表(2)の如  
くに分養した。ふ化仔に対する青仔の歩留は平均22.6%である。

表 (2) 青仔放養状況

種別	放養池 面数	面積	放養尾数	体 型	
				体長	体重
小	11	20,676 ( $m^2$ )	631 (千尾)	3.1 cm	1.1 g
大	1	1,814	13	8.2	16.3
混合	4	6,070	210	5.7	5.9
計	16	28,560	854 (2,154 Kg)	平均 3.8	平均 2.5

(3) 鯉苗養成

青仔を分養した銅育池16面(28,560 $m^2$ )には表(3)の如く施肥した。

鯉苗養成には表(4)に示した飼料を投餌して、11月中旬表(5)の如き取揚成績を得た。

表 (3) 施肥料の種類及び数量

種 類	数 量	施肥面積	$m^2$ 当り施肥量	附 記
石 灰	3,750 (Kg)	28,560 ( $m^2$ )	131 (g)	消毒用
鶏 糞	1,000	"	34	
醬油粕	14,100	"	494	
牛 糞	375	3,628	—	堆肥2ヶ所
藁	375	"	—	

表 (4) 鯉苗養成投餌量

区分 \ 種類	蚕 蛹	大洋フード	仕上糠	カニ粉	計
投餌量 (Kg)	11,460	2,457	1,902	20	15,839
餌料配合組成%	72.4	15.5	12.0	0.1	100

表 (5) 鯉苗取揚成績

青仔放養尾数	854,000尾 2,145kg	増重量	8,815 Kg
青仔 $m^2$ 当り放養数	30尾 75g	総投餌量	15,839 Kg

青仔放養期間		Ⅳ 5 ~ Ⅳ 12 Ⅵ 17 ~ Ⅵ 19	増重系数	1.8
取 揚 量	放流用鯉 苗取揚場	4 5 9.7 0 0 尾 1 0.7 1 0 Kg	鯉苗 $m^2$ 当り 生産量	3 8 3.7 $\rho$
	親鯉候補 用保留種苗	5.0 0 0 尾 2 5 0 Kg	青仔に対する 鯉苗歩留	5 4.4 %
	総取揚量	4 6 4.7 0 0 尾 1 0.9 6 0 Kg	鯉苗取揚時期	Ⅹ 1 7 ~ Ⅹ 2 8

(4) 放流

10月18日から開始し約40日間に逐次取揚げ、鯉の棲息条件、魚礁の設置状況等を考慮し放流船及び自動車によって放流した。

放流には漁連及び地先漁協組代表立合の上実施した。又次代の親鯉を養成するために、250 Kgの種苗を保留、構内旧1号池(11.550 $m^2$ )に放養した。なお、池中養殖組合で生産されたもの375 Kgを別途に湖心部へ放流した。

放流状況の明細は、別表「地先別鯉苗放流状況」のとおりである。

地先別鯉苗放流状況

月 日	放流地先	放 流 量		放流時の天候及び水理条件			備 考
		計画量	実施量	天候	気温	水温	
10.18	彦根・松原	300 <sup>Kg</sup>	300 <sup>Kg</sup>	雨	21.0 <sup>°C</sup>	21.0 <sup>°C</sup>	
	磯 田	170	170	"	"	"	
	米 原	420	420	"	"	"	11.14たんかい丸により追加放流
10.24	浜 分	200	200	晴	"	16.0	自動車放流
10.25	両浜・石寺	330	330	"	16.5	19.0	
	南 津 田	220	220	"	"	"	
10.26	志 那	510	510	"	19.0	17.0	
	玉津、小津	200	200	"	"	"	
10.27	海津・知内	400	400	"	20.0	19.2	自動車放流
10.30	沖ノ島	600	600	曇	19.0	18.0	11.15たんかい丸により追加放流
	大津・湖南	450	450	晴	18.0	"	
	瀬 田	340	340	"	"	"	11.7 自動車により、追加放流
10.31	和邇・堅田	630	630	曇	18.1	16.4	

11. 1	塩 津	300	300	曇	19.0	17.0	
	大 浦	300	300	"	"	"	
11. 2	山田・矢橋	600	600	"	18.5	17.4	
11. 8	木の浜今浜	700	700	晴	17.9	16.5	
11. 9	南浜・川道	680	680	曇	14.5	16.0	11.17びわこ丸により追加放流
11.10	湖西・北船木	400	400	"	16.0	17.1	
	今 津	200	200	"	"	"	
11.14	長 浜	210	210	"	14.0	16.0	
11.17	竹 生	200	200	雨	17.0	16.0	
11.21	尾 上	590	600	晴	14.5	15.5	自動車放流
11.27	湖 心 部	—	300	曇	17.0	14.0	
11.28	三 和	130	130	晴	14.5	14.0	
	四 津 川	130	130	"	"	"	
	高島・大溝	210	210	"	14.5	14.0	
11.30	菖喜・佐波江	330	330	曇	16.2	15.0	
	吉 川	220	220	"	"	"	
12. 1	小 松	130	130	晴	20.0	15.0	
小 計	42ヶ所	10,100	10,410				
	親鯉候補用種 苗として保留		250				
	沖の島漁協組 へ払下		300				
計			10,960				

## II 親鯉候補養成事業

放流用鯉苗の生産に必要な親鯉の養成自給を計るため前年生産の放流用鯉苗中から形質優良なもの360kg（4700尾）を選別し、構内旧1号池に於いて親候補魚の養成を計った。

本年度の目標は総取揚量1500kgとし、その内形質優良なもの150kgを選別して、親鯉に仕立てることになったが途中水害を受けたため、総生産量に於いては目標を達成しえなかった。

### (1) 放養

候補鯉養成のために放養した種苗の量は表(1)の通りである。表中、草魚を放養したのは、本池は夏期、水草類の繁茂が著しく飼育魚の成長に悪影響を及ぼすので、これを駆除するため、前年飼育のものを引続いて放養した。

表 (1) 候補養成種苗放養状況

養成池	面積	種類	放養月日	放養量		平均体重	尾数 m <sup>2</sup>
				尾数	重量		
旧1号池	11.550m <sup>2</sup>	鯉苗	S 36 III 29	4700尾	360	76.5g	0.4
		未熟親鯉	S 36 III 30	72	28	400	0.006
		草魚	S 36 III 29 IV 24	384	161	420	0.03
計	11.550m <sup>2</sup>	—		5156	549	—	—

摘 要
放流用鯉苗中から選別
親鯉中から淘汰再飼育
昭和34年9月埼玉水試から購入継続飼育のもの

### (2) 飼育経過

#### 1 給餌状況

4月上旬から投餌を開始し、11月中旬まで継続実施した。又池水豊度の上昇とプランクトンの発生を促進するため期間中適宜施肥を行った。

投餌量及び施肥量はそれぞれ表(2)、表(3)に示した。

表 (2) 候補鯉養成用餌料の種類及び数量

種類 数量	蚕蛹	大洋 フード	碎麦	仕上糠	塩虫	カー粉	計
給餌量 (Kg.)	1.163	301	850	264	179	178	2.935
餌料配合 (%)	39.6	10.3	29.0	9.0	6.1	6.0	100

表 (3) 施肥料の種類及び数量

種類	数量	施肥面積	単位面積当 り施肥量	摘 要
醬由粕	900 kg	1.1550 m <sup>2</sup>	78 g / m <sup>2</sup>	期間中3回に分けて施肥
石灰	1.875 Kg	1.1550 m <sup>2</sup>	162 g / m <sup>2</sup>	昭和36年5月11日散布 (消毒用)

## 2 水害

昭和36年6月中旬から降り続いた豪雨によって旧1号池 (面積1.1550 m<sup>2</sup>) は6月27日冠水し始め、最高水位は、池壁上約80 cmに達した。

この異常な増水のために飼育魚逃逸防止のため、予め施設してあった金網柵も水漬し、旧状に復するまでに16日間を要した。

このために飼育魚の大部分が散逸したのは遺憾であった。

### (3) 取揚成績

飼育魚は12月4日～5日の2日間に取揚げを実施した。その成績は表(4)の通りである。

表 (4) 取揚げ成績

項 目	記 事	備 考
養成池面積	1.1550 m <sup>2</sup>	表 (1) 参 照
種苗放養量	549 Kg	表 (1) 参 照
尾数	5,159尾	
時期	昭和36年III 29~IV 24	
取揚時期	昭和36年XII 4~5	
総取揚量	※ 732 Kg	飼育池冠水後の残魚
総投餌量	2.935 Kg	

※ 候補鯉 60 Kg (100尾)  
 不良鯉 595  
 鮒 77

(4) 候補鯉の選別淘汰

鯉取揚総量 655 Kg の内、次代の親鯉候補用として形質優良なものを選別したところ、約 1割 60 Kg (100尾) が得られたので親鯉専用池に移し継続飼育実施中である。

Ⅲ 鯉苗購入放流事業

本年の放流事業は、従来の供給地に於ける鯉苗の漁況が思わしくないために新しく徳島県に供給地を開拓し、総量 1.933.8 Kg の購入放流を実施した。

1 購入先

徳島県 大津漁業協同組合

2 購入時期

自 昭和36年9月28日

至 昭和36年11月2日

3 検収及び蕃養

到着した鯉苗は直ちに検査し病魚、損傷魚、蔽死魚を除き生簀箱15ヶによって平田事業場内河川に蕃養した。

蕃養期間 4～6日

4 購入数量及び平均体型

購入量 1.933.8 Kg (345300尾)

平均体型 体重 5.6 g 全長 10.2 cm

5 放流成績

購入鯉苗は10月4日から11月10日の間に別表(鯉苗地先別放流状況)の如くに放流した。

鯉苗地先別放流状況

放流水域	計画量	実施量	放流水域	計画量	実施量
大津	80 Kg	75 Kg	吉川	40 Kg	40 Kg
山田	110	90	速野	130	100
志那	110	90	朝日	140	105
瀬田	50	50	長浜	60	58
堅田	150	80	松原	50	50
小松		58	今津	60	58

放流水域	計画量	実施量	放流水域	計画量	実施量
玉 津	30 Kg	30 Kg	塩 津	60 Kg	58 Kg
葛 喜	30	30	永 原	50	50
沖ノ島	100	90	マキノ	60	58
南津田	40	40	三 和	50	50
両 浜	80	70	舟 木	60	58
磯 田	50	50	高 島	45	45
米 原	100	90	湖心部	375	245.8
南 浜	120	95			
竹 生	20	20	計	2,500.0	1,933.8